

腎障害時の医薬品投与データベースの構築

Construction of a Database on Drug Dose in Renal Failure

○藤村美咲 大野逸子 杉平直子

メディカルデータベース株式会社

Misaki Fujimura Itsuko Ohno Naoko Sugihira

Medical Database Co.,LTD.

【背景・目的】超高齢化社会の到来により、腎機能低下患者が増加の一途をたどっている。腎機能低下時に腎排泄型の医薬品を投与すると、未変化体や活性代謝物の排泄遅延により副作用が発現しやすくなる。したがって、このような医薬品では腎機能に応じた薬物投与設計を行う必要がある。近年では院外処方箋に腎機能検査値等を記載する医療施設も増えており、病院のみでなく薬局においても、薬剤師による腎機能に応じた投与量の適正チェックがより一層必要とされている。その一方で、腎障害時の投与量についての添付文書の記載には不十分な点が多く、適切な処方監査を効率的に行うことは難しいのが現状である。そこで、薬剤師の処方監査業務支援を目的として、腎障害時の医薬品投与データベースを構築した。

【方法】腎機能低下時に特に注意が必要な医薬品約 500 品目を対象とした。添付文書やその他文献を元に、クレアチニンクリアランス別の推奨投与量をデータ化した。効能効果や、初回量・維持量などの条件により推奨投与量が異なる場合には、条件別に投与量を設定した。さらに、尿中活性体排泄率や血中濃度消失半減期などの薬物動態パラメータもデータ化し、薬剤師が医薬品の薬物動態の特徴を考慮しながら処方監査が行えるように構成した。

【結果・考察】本検討では、腎機能障害のレベル別及び効能効果などの条件別に投与量チェックを行うことが可能なデータベースの構築を行った。クレアチニンクリアランスごとに具体的な投与量を設定したことにより、個々の患者の検査値に応じて、対応する用法用量を絞り込むことができるようになり、腎障害患者に対する処方監査の標準化、効率化に寄与できると考える。本データベースの作成対象医薬品を、腎排泄型の全医薬品に拡張することを今後の課題とする。